

令和元年度 第1回静岡県多面的機能支払交付金第三者委員会 議事録

- 1 開催日時 令和元年12月18日(水) 12:10から16:00まで
- 2 開催の場所 いいな故里は、守ろう原睦み会(富士宮市)
- 3 出席者 委員
犬塚協太委員、佐野敦子委員、瀧昇悟委員(委員長)、中村範子委員、山下雅幸委員、事務局ほか
- 4 議 事
 - (1) 静岡県多面的機能支払交付金の今年度の取組み状況について説明(事務局)
 - ア 令和元年度に交付金を受けて活動している地区は、232組織、約13,300ha
カバー率 22.4%
平成30年度は完了を迎える組織が多く、初めて前年度より認定農用地面積等が減になった。
 - イ 令和元年度に新たに7組織参加。今まで活動のなかった下田市、南伊豆町も参加。
あと活動がないのは熱海市、清水町。
 - ウ 制度の変更点等多面的機能支払交付金について説明
 - (2) 富士農林事務所管内の取組状況等説明(富士農林事務所 農村整備課)
 - ア 管内の多面的機能支払の取組状況等
 - (ア) 管内は富士宮市、富士市。
 - (イ) 管内の活動組織は9。活動面積は約839ha。
 - イ 視察先(いいな故里は、守ろう原睦み会)の概要について
 - (ア) ふじのくに美しく品格のある邑「白糸の里」に登録されている。
 - (イ) 農地維持支払・資源向上支払(共同)の活動を行っている。
 - (ウ) 平成19年に活動開始。白糸の滝周辺で155haの水田を整備した。
 - (エ) 平成30年度多面的機能発揮促進事業関東農政局長賞の最優秀賞を受賞している。
 - (3) 現地視察(いいな故里は、守ろう原睦み会「以下、睦み会」)
(現地確認) 原川
(活動組織)
 - ア 原川は室町時代に手掘りで作られた農業用水路である。
ほ場整備は、富士山の石(みだれ石)を利用した「みだれ石積み護岸」工法を採用した。
 - イ 水かけ菜を作って手もみして販売している。
 - ウ 白糸コシヒカリは、寒暖差が激しいからおいしい。白糸コシヒカリのブランド化

をすすめている。

エ 棚田を巡るウォーキングイベントや稲刈り体験を行い、体験後におむすびを振る舞う等、様々なイベントを開催している。

オ ここは和紙原料の三桮の発祥の地。三桮を植栽し、世界に1つしかない卒業証書を卒業生自らが作る。

カ 芝川のりは環境省のレッドリストに載っている絶滅危惧種。保護したいと思い、活動している。

キ 障害者を雇用している地元企業と遊休農地への植栽を行っている。(一社一村しずおか運動)

ク しめ縄稲を栽培し、地元の中学生と大しめ縄を作り浅間大社へ奉納。

ケ アダプトロードに指定され、清掃等を行っている。

コ 地元の婦人組織で経営する手打ち蕎麦のお店は、土日は並ぶほどお客さんが来る。

サ 睦み会は高齢化してきている。若い人がなかなか入ってくれず後継者がいない。

(委員) (回答者：活動組織)

シ 原川の泥上げは人力で行っているのか？1日で終わるか？

⇒人力で行っている。

草刈りは全戸参加行っている。以前は1日で終わらなかったが、要領がよくなり半日くらいで終わるようになってきた。

ス 紙すきを指導する先生がいるか？

⇒専属の先生に指導を受けながら行っている。

若い三桮を切ってきて乾かしてとってある。それを水に戻し、皮をむいて白くになったら使う。

セ 川のりは以前はたくさんあったか？

⇒あった。

(現地確認) ほ場

(活動組織)

ソ 勾配が急なため法面の草刈りが大変だが、なだらかにすると面積が減ってしまう。

タ 来年2月23日に第4回となる竹灯籠祭りを開催する。

富士山の高さと同じ3,776本の竹灯籠を灯す。

入場者数は1回目は約3,000人、2回目は約5,000人、3回目は約1万人と増えてきていて好評。

放置された竹林の整備を名目に始めた

約52億円かかったほ場整備に協力してくれた方々への感謝として行っている。

(委員) (回答者：活動組織)

チ 竹灯籠祭りの発案者は？

- ⇒県からコーディネーターを紹介してもらいワークショップを3回開いた。
棚田が未来へつながるように、という発想から出た。
- ツ クラウドファンディングで行っているとのことだが、地元企業から資金を集めているのか？
多面的機能支払交付金は使っているか？
⇒多面的機能支払交付金は使っていない。
地元企業以外からも集めている。
- テ 年にどのくらい活動しているか？
⇒毎年2月に次年度の計画を立て、その時点で日曜日が全部埋まる感じである。
役員会等は除いて、作業だけで年60日。
法面が最大4mある。今70歳以上の方が草刈りをしているが、難しくなってきた。後継者がいないと、竹灯籠祭りもできなくなってしまう。
- ト 整備される前は小さなほ場だったか？
⇒はい。換地で大区画化した。
道路・水路の土地は皆で出し合った。
- ナ ほとんど米を作っているのか？
⇒ほとんど米だが、裏作として水かけ菜も栽培している。
寄り合い処の女性が漬けて販売している。
- ニ これだけ広いと管理が大変ではないか？委託しているのか？
⇒農協に委託すると高いので、共同で行っている。
機械を持っている人に頼んで管理してもらっている人もいる。
- ヌ 寄り合い処とは何か？構成員は女性か？
⇒昔は婦人の老人会であったが、聞こえが良くないので、寄り合い処と名前を変えた。
お弁当を作ったり睦み会の手伝いをしてもらっている。
寄り合い処の構成員は、女性約15人。
- ネ 水かけ菜の製品化には女性のパワーが必要か？
⇒必要である。

(意見交換会)

(活動組織)

- ノ 昭和62年から平成17年まで県営ほ場整備事業を行った。
- ハ 構成員は約180人。取組面積は32.84ha。
- ヒ 行っている活動
- (ア) 農地維持活動・・・かや刈り、護岸の草刈り(年2回)
- (イ) 景観形成活動・・・コスモス等を植える
- (ウ) 農村伝統文化継承活動・・・三椏を栽培し、紙漉きの指導を実施。
- (エ) 富士山白糸平成棚田竹灯籠祭り・・・実際は竹灯籠を4,000本以上使用。竹灯

籠は竹の片面を切ってろうそくを入れている。

- (オ) 平成棚田ノルディックウォーキング大会・・・約6km歩く。歩いた後に寄り合い処の方が味噌汁・塩むすびを作り提供している。
 - (カ) 農業体験・・・田植え、稲刈りの体験をしてもらっている。コンバインと一緒に乗って、稲刈りをしてもらう体験も好評。
 - (キ) 大しめ縄作り・・・大しめ縄をお米と一緒に浅間大社へ奉納している。
 - (ク) 広報・・・Facebook、HPを開設している。
- フ 棚田づくりや白糸コシヒカリを世の中に出したのが、この地区の功績である。

(委員) (回答者：活動組織)

へ 竹灯籠は毎年新しく作るのか？

⇒かびが生えず上手に使えば、次回も使えるが、2年でだめになる。

補充しながら常時4000本になるようにしている。

竹はたくさんあるが、切った後の竹の葉を片付けないといけないのが難しい。

放置竹林をなくすということで、皆に協力してもらっている。

ホ 大学生との連携は大学としているのか？個別の大学生としているのか？

⇒コーディネーターが県立大環境サークルCO-COと関係があり、1・2回目は静岡県立大学の人に手伝ってもらった。

川のりの関係で日本大学の学生10人くらいに来てもらった。

3回目以降は続いている。

地元の小中学校を引き込んでの祭りは継続してできている。

昨年から子供に100枚の絵を描いてもらい、行灯の2面にその絵を貼っている。

子供が絵を描いた灯籠があることで、その親も祭りに引き込める。

マ ノルディックウォーキングのアイデアはどこから出たか？随時参加は可能か？

⇒渡辺元会長が発案。

田舎の催しは、アイデアがあっても中々実現するのは難しい。

地域外の人に見てもらおうことで、地域内の人も地域をきれいにしないとと思うようになる。

パンフレットをあちこちの公共施設に置いてもらい、新聞、HPでも広報している。

随時参加は可能。

ノルディックウォーキング大会のときには、豚汁・おむすびを出している。地域の勉強をしながら歩いている。

外国の人が増えてきており、英語版のパンフレットも作成してある。

ミ 情報発信をしているいろいろなイベントをしているが、HP等の更新・管理は誰が行っているか？

⇒外注せず、活動組織の役員が行っている。サラリーマン退職後に睦み会に入った移住者。

移住してきたときに地域の方から、ここには何も無いと言われたが、この地域には宝物がいっぱいあることを知ってもらいたいと移住者は思っている。

ム 移住者は多いか？

⇒少ない。

人口を増やし、後継者をつくり、田畑を保存していく必要がある。

メ 白糸の名は売れてきている。白糸コシヒカリもおいしいと聞いた。

睦み会のように応援団を作りながら農業をしていけば、農業をしてみたいという人も出てくるのではないか。

モ 農業体験イベントをしているが、地域外からも参加者は来るか？

⇒地域外からも来ている。

東京から体験イベントに来て、県内で農業に従事するようになった人もいる。

ヤ 他の地域の棚田では、オーナー制にしているところもあるが？

⇒オーナー制は行っていない。イベントを行っている。

イベントをするのが目的ではなく、地域のファンになって応援してもらいたいと思っているが、移住までなかなかつなげていかない。

ユ おそば、紙漉き等によりお米以外でも収入があるなど徐々に成果が出てくれば、希望につながっていくのではないか。

⇒何をするのが正解かわからず、いろいろ手を出している。今は手いっぱいであり、これ以上の活動は行う予定はない。

ヨ 棚田博士の随筆のなかで、株式会社富士山白糸ファームの発展が期待されるとなっているがどうか？

⇒間に公共機関が入り安心して農地を貸し借りできる制度がある。雇用して、借り受けた農地等で米作りをしている。

出資して会社をつくった途端に代表が体調をくずしたので、今後運営をいかに継続してやっていくか考えている。

ラ 寄り合い処は、何歳くらいの人が多いか？

⇒1番若くて70歳。88歳の方もいる。

リ 高齢者が孤立しているとよく聞かすが、寄り合い処は地域の心のよりどころになっている。地域貢献されている。

ル 竹灯籠祭りで親を取り込んでいるとのことだが、子育て世代の人と連携していくのが、次の子供世代へもつながっていき良いと思うが、他に何かされているか？

⇒地域の人が小学校に行って先生になって話をしたり、しいたけ作りをしている。

子供と地域のつながりは強いが、地域に大きな会社がないので大人になると都会に行ってしまう。

レ すぐには担い手になってもらえないと思うが、若い人が地元の農業へ理解を示していると、今後は広がっていく可能性がある。

⇒働いている人は土・日曜日は家のこともあり、地域のことで参加するのは難しいが、月に1回、何か地域のために一緒にできるとおもしろいと思う。

5 その他

配布資料

- ① 第1回静岡県多面的機能支払交付金第三者委員会現地視察
- ② ふじのくに美農里プロジェクト 多面的機能支払交付金を活用しよう